（大正八年三月七日第三種郵便物認可）

十夕日刊

磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四
編輯兼發行人　岡田弘成
福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五
發行所　磐城時報社
一部金貳錢　一ヶ月金拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
▲日刊（日曜、祭日休刊）

經營容易でない
石城地方の酒造家
法外な安値で賣つたため
持越高が激減

石城郡酒造組合では過般秋期總會に於て今年の仕込高に就て協議した結果減石は各自の自由に任せることゝなり、全國酒造界の一割減協定を無視したかの觀があつたが其の後に於げる石城郡下の仕込を見ると（平稅務署調査）郡下總仕込高一萬九千七石でこれを前年の仕込高に比較すると千九百九十八石即ち一割以上の大激減で事實に於て協定通りの結果となつて更に古酒の持越八千二十七石、燒酎持越高三十三石で昨年と比較すると清酒六百七十七石、燒酎十三石の大激減である、此れは表面酒の販賣率が良好だつたやうに見えるが事實は極度の苦況にある當業者が納稅期持越しの窮策として法外な安値で持酒の亂賣手放しをした結果からである。

▲四倉市場取引　四倉繭市場九日の取引は五百六十一貫で高値七圓十錢、安値五圓六十六錢、平均六圓二十八錢で秋繭取引開始以來の出廻り二萬一千余貫に達した。

磐崎の精神病者に
困り果てた日本銀行
再び金貨五圓を贈つて
二千五百圓と交換を申込む

石城郡磐崎村大字田塲坂柴田寛一は去る一日金貨五圓を日本銀行本店に送り

日本の五圓紙幣は製造費一枚一錢しかかゝらぬ、故に五圓紙幣五百枚二千五百圓と交換して貰ひ度い。

と申込んだので委托により平警察署で取調べた處柴田寛一は精神病者であるため金貨五圓を本人に返した上說諭を加へて歸した事既報の如くであるが、同人は又々左の如き書面を添えて金貨を日本銀行に送つたので同行でも困り果てた結果日本橋區堀留警察署を通じ十日平署に該金貨と書面を返して來たので高等係鳴原刑事が說諭するため柴田兄弟が第二回目に日本銀行に送つた書面左の如し。

時下秋冷の候御銀行益々御清福の段奉大賀候陳者本月六日附石城郡平警察署より小生名宛の金貨請取候へ共誠に心外の至り如何なる考へ達に候や金解禁等近年盛に記事其他雜誌にもある事に候處改めて今日金貨一個御送附申上候間何分先便にて申上げ置き候通り現在生活困難にて今日明日死亡致すやうなる家族も有之亦親父も身体病氣にて金貨御入手次第貴公宜敷やう誠に御手數相掛け申譯無之候へ共是非送金になり御都合御融通協議又は御相談相成る可く右の儀參上萬々御願ひ仕る可きの處不本意乍ら書狀にて願上候

昭和四年十月六日
福島縣石城郡磐崎村
大字田塲坂
柴田平吉
柴田寛一
東京市
日本銀行總裁土方久衞殿

教育功勞者表彰
石城教育部會總集會

石城郡教育部會總集會は十一月十日午前九時から平町第一小學校に開き議事の後勤續二十五年以上の教員並に多年教育界に功勞のあつた者を表彰し、會員の演說に移り、午後は成城小學校主事小原國芳氏の講演がある由である、尙ほ同會は目下關西並に東北方面教育視察希望者を募集中である。

▲大浦組頭任命　大浦消防組頭根本甚吾氏は此程辭職し後任として現組頭代理賀澤庄三郎氏任命せられ組頭代理として小頭鈴木傳氏任命された。

▲トラホーム檢診　平町に於けるトラホーム檢診日割左の如し。

▲十四日新町、長橋町▲十五日材木町、南町▲十六日研町古銀冶町、紺屋町▲十七日鍛冶町、仲間町、鎌田町▲十八日五丁目、一丁目▲十九日三丁目、鐵道官舍、大工町、堤ノ内、月見町▲二十日久保町二丁目▲廿一日南白銀、四丁目▲廿二日八幡小路、揚土、搔捲小路、舊城跡▲廿三日新川町、北白銀町▲廿四日立町北目町、胡摩澤

▲婦人會總會　平町婦人會總會は十一月三日平第二小學校に開くが生活改善同盟の塚本ハマ女史の講演があると。

湯本町の
區制批判演說

湯本町會議員兼區會議員若松孝平氏等の發起にかゝる湯本區制徹廢の批判演說會は九日三函座に開催したが聽衆三百名、若松氏は湯本町は水も金も湯も必要であるから區會議員を從前通り存置して大いに活動せねばならぬと論じた。

朝鮮勞働者が
經營者に強硬談判
賃金を拂はぬ川瀨炭礦

財界不況と經營宜敷きを得なかつたため赤井村川瀨炭礦は遂に經營難に陷り勞働者に對し賃銀を支拂はぬため勞働者と經營者間に紛擾を起してゐた事既報の如くで、經營者側では去る七日まで支拂ふ筈であつたが金の都合つかず十日に延期してゐた處十日になつても支拂ふ樣子がないので同礦の勞働者朝鮮慶尙南道江州面生れ朴秀素（二五）外一名は十日午前十一時頃平町四丁目の川瀨炭礦經營者川瀨幸治の代理人佐川某宅を訪れ支拂方を强硬に要求してゐる處を平署員に發見され取調べた經果前記の始末と判明したが、朝鮮人は未拂賃銀は今日支拂はなくとも好いから確實に支拂ふ日を約束した書類が欲しいといふので平署高等係で斡旋し書類を渡して立ち歸らせた。

▲兒童研究總會　石城郡兒童研究會では平第一校に總會を開き會長に曾我第一校長を推した。

▲消防組表彰さる　石城郡豐間、好間、內郷、小名濱の各町村消防組は消防用貯水池設置、道路改修、鹿島村大火に盡力した等の功勞により歌川警察部長から金馬籠一條宛を授與された。

青年運動に就て
（下）　武藤豐

犬養木堂翁漫談の一節は一見極めて平凡らしい意見にとられやすい處があるが、其の實青年大衆運動の實狀を鋭く穿つてゐる觀察であると私は敬服せざるを得ないのである。實例を我々の磐城青年同盟會にとつてみた處で、木堂翁の言はれたやうな惱みが始終實際運動に影の如くつきまとつてゐないとは斷言出來ないのだ、私は之を否定し得る丈けの勇氣と自信とを持ちゐないことを告白しなければならない。犬養翁は「青年の指導に何よりも必要なことは、前途に希望を持たせることだ」と言はれてゐる。然らば如何にすれば希望を持ち續けて大衆運動の使命を完うしうるか、その具体的方策はどうしたらよいかと云ふことが問題になる。私は此の問題を磐城青年同盟會の會員諸君と共に實際的に考究してみたいのである「青年に希望を持たせるといふのは、自己の力、自分達の力を以て國政を刷新させ得る刷新して自分達の時代政治を實現して見やうといふ希望を持たせる」我々青年同盟會では過般行はれた町村會議員改選の際は、四倉支部から三名大野支部から一名の町村會議員を出してゐるが、此の例などは犬養翁の所謂「自己の力、自分達の力を以て」云々を實踐してゐるものだと云はれないこともないのである。我々の會は實に貧弱ではあるが、希望には燃えてゐることを私は信じる。先般の總會で役員改選が行はれ會長に木村守江氏が滿塲一致にて推されたことであるし、其他の役員も新進氣鋭の會員諸君が選ばれることであらうと考へるので、私は之等の諸君が益々青年運動の指導に努力される爲に會が度々催した大辯論會の外に實踐的方策の研究會をも設けてはどうかと考へるのである。（終り）

▲ダブル

明治神宮競技庭球戰に出塲する本縣選手中濱三郡の者左の如し

神宮競技
出塲選手

（平）阿部計三
同　町　奥津昌
（平）町根本式雄
（中）村佐々竹忠義
（內）郷志賀隆壽
（平）町狩猪四郎

▲シングル

（內）郷村志賀隆壽
（平）町阿部計三

小學教員
チブスに罹る

石城郡內郷村字久世原同村高坂小學校教員新妻たけ（二四）は三日發病したが七日腸チブスと決定したので學校の大消毒を行つた。

教化總動員
舞踏と講演

石城教育部會、青年團、女子青年團主催の教化總動員講演會は二十日午後一時から平町聚樂館に開き高知尾誠氏の講演後左の舞踊があると。

國の華、鹵簿、在郷軍人、孝友和信、稚郎子、君民一致

氏名を詐稱した 擧動不審男

伊達郡小平村大字畑中伊藤忠臣（三六）は九日午後七時頃平町六丁目清水屋旅館事根本シン方に伊達郡川俣町遠藤辰治（三一）と氏名を詐稱して投宿したが擧動不審なので平署で取調中である

▲小學生隔離

平町二丁目下駄商小松三藏長男平第一小學校三年生俊夫（一〇）次男芳雄（七ッ）の兩名は腸チブスに罹り隔離された。

▲四倉署長旅行

四倉警察署長松本重吉氏は横須賀港軍事視察のため四日間の豫定で九日午前八時二十分四倉驛發列車で出張した。

▲落磐で死亡

石城郡湯本町字寶海居住入山炭礦新四坑坑夫白土小太郎（六〇）は八日午後二時半頃同礦第一斜坑で作業中落磐のため重傷を負ひ手當中九日朝死亡した。

ハガキ集

—（投書歡迎）—

▲平町に怪物さわぎが持ち上つた、目下下男、下女大騷ぎ場所は二丁目料理屋の目玉下女と口論四谷怪談のお岩樣にかほ青くしてかゝりなぶられ女將の價なしとは面目なし。（外見生）

三人殺しを逮捕するまで

小田部警部（寄）（十）

六、被害者轉住の事由

被害者は數年前より葡萄澤國有林立木拂下炭燒仲間に加入したるものにして、大正十四年十一月中同村佐藤安治外十名にて〇〇國有林十町歩内立木を千四百余圓にて拂下、之れを十一名にて分割製炭し居りたるも千萬吉は大部分燒終り被害十數日前豫め拂下確定し許可手續中なりし隣接國有林なる被害現場に新に小屋を設け、移轉したるものにして其の以前は被害現場より西方約二丁ばかりの處に小屋を掛け居住しておつた。

七、親族關係に就て調査するも何れも圓滿にして、容疑する者無し。

八、山林拂下及出金並に炭購賣の狀況

山林拂下は同村佐藤安治外十一名の組合員にて、國有林十町歩内を前記千四百余圓にて拂下げ、組合員十一名全部立會の上、抽籤により按配したるものにして、其の内紛擾等更になく、拂下代金は從來組合員各自支出しつゝありたるも大正十五年度より大笹生村信用組合より低利資金の融通を受くる事となり居りたるものにして之れ又問題ありたる事實なし、炭は運搬人をして板谷の北浦商店に搬出せしめ賣却し居る者多く被害者も同樣の方法にて賣却しつゝあり

九、貸借關係

被害者は生活豊かならざる爲め、身分不相應の借財あり其の主なるものは板谷の北浦商店より木炭賣却の名儀を以ての前借及日用品代金二百四十圓余、信夫郡中野村蒲倉高次郎より二百圓、其他數名より二百余圓、合計六百余圓の借財あり何れも信用借にて期限經過しあり。

鼻の藥「チタノール」
平五　山野邊藥局

江戸前季節
鳥・鰻
松たけ
料理
平町南町平館隣り
蒲燒　魚榮
電話四二四番

△共存ト共榮
△簡易ノ金融
△趣味ノ貯蓄
△誠意ト堅實
磐城無盡商會
△縣内
△至ル所ニ取扱所アリ
△何時デモ申込下サイ
△絶エズ會員ヲ募リマス

胃腸　梅毒
内科　淋病　婦人病　十二指腸虫病　皮膚病　胃腸病　性病
專門　專門
松村醫院
（平南町　電話一〇七）

驚いた!!!
こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物

液体空氣會社製（酸素含有量百分中九九・五）
（東京工業試驗所長證明）
吸入用酸素・酸素吸入器
正確ナ体温器・寒暖計
特約店　磐城平町　關内藥局　電四〇番

ユラノスケ粕取燒酎發賣
二合白瓶二十五錢（空瓶交換仕候）
平町四丁目平驛通り
永山酒造店總發賣元
電話二〇七番

果然!!
靴業界の大塚製品の誇り
特殊な製法と最新の形
大英斷の値下げ斷行!!!
ボックス革　自製半靴　七・〇〇ヨリ
同　同　編上靴　九・〇〇ヨリ
赤革　同半靴　八・五〇ヨリ
同　同　編上靴　一〇・〇〇ヨリ
品と値は他店の追從を許さず
平町田町　電話七〇二番　大塚支店製靴部

七週年記念謝恩特賣
弊店儀開業以來茲に七週年平素格別の御聲援御引立御禮として七週年を記念し謝恩の微意を以て來る十月三日ヨリ十月十七日迄十五日間左記特價を定め御用命御待ち申上候間此際多少共御注文の程奉懇願候
丸形（上々新規七十錢　同張替四十錢）
弓張（同上新規六十五錢　同張替三十五錢）
細長形弓張（上新規六十錢　同張替三十錢）
卵形（上々新規七十五錢　同張替四十五錢）
弓張（同上新規六十五錢　同張替三十五錢）
其他並物五錢安　消防火防青年團等數物は特に御相談
平町四丁目　電話七二三番　スガノヤ提灯店

大衆の求め・映畫人の渴望を收めて此の名篇に
悅樂勇壯無比の一週間
日活會社超大作・千惠藏映畫・ガサノ作品
低趣味　徊作　特作畫映　繪本武者修業
出に業修者武な珍奇が殿若る眠に風春ざ過を亡興乱治
……すでり語物の畫映此がのたで
十日（木）寫眞替
原作……田中敏樹
◆阪東妻三郎主演
新撰組隊長（最終篇）
連續映畫　近藤勇
虎松の宅に新撰組土方一味が襲撃した、阪本龍馬の一命は……突如亂爭……
土曜日曜學生デー　平館　日活松竹　電四六六
◆鈴木傳明主演
藤野秀夫、田中絹代助演
（彼と東京）（姉妹篇）
（彼と田園）
三部曲　彼と人生
私しの名は遠山達夫と云ひます、馴染の藝者と箱根に行つたら親爺に見つかつて私しの人生が新らしくなつたのです。

煙突は『朝日』
石綿セメント製
雨露に晒す程強く永る煙突
朝日煙突
絶對にはぜ永い！やけ永い！くさら永い！
經濟的で火災の心配が永い
特約店
釜屋商店　電話九九三一